

<単元・題材名等>

災害からくらしを守る

・ミライシード(ムーブノート)

ねらい

洪水が発生した際に起きうる様々な問題に対してどのような選択をするかを考えて話し合う活動を通して、災害時にはどう行動するのが最も安全か考えて行動したり、様々な立場の人と協力したりしようとする態度を育てる。

主なICTの活用方法

- ・ムーブノートのスタンプ集計機能で自分の立場を明確にして、考えをまとめたり、話し合ったりする。

ICTを通じて育成する資質・能力

- ・自分の考えの根拠を基にまとめて、整理して話することができる。
- ・仲間の意見を取り入れて自分の考えをより深めることができる。

実践の概要

2つの具体的な状況下でどのような行動をとるか、どのような判断をするかを考える活動を位置付ける。

1つ目は、自分が災害（風水害）に遭遇した際、どのような行動を取るか、どのような判断をするかについて、立場と根拠を明確にして自分の考えをカード（ムーブノート）に書く活動を行う。考えを書き終えた児童からカードを広場に提出し、他の児童の意見を読み比べる。その後、「すぐに避難するように行動する」「すぐには避難しない」といった立場ごとに、発表し、自他の考えの共通点や相違点を見いだす。

2つ目は、「避難所で配られる食料をもらうかどうか」の判断を、立場や根拠を明確にして自分の考えをカードに書く活動を行う。1つ目と同様に、自他の考えの共通点や相違点を見いだす。

2つの活動を通して、立場や自分が置かれている状況によって行動や判断が異なっていくことや、様々な状況の人々と協力して活動することの重要性について考えることができるようにする。

児童の学びの様子

○2つの問いに対して、自分がどのような行動をとるのかを判断する際に、既習事項や自分の家庭環境や住んでいる場所等の状況を基に考え、表現することができた。また、様々な立場に応じて考えが異なることにも気付くことができた。

○自分の考えを、ICTを活用して表現し、共有スペースに提出することで、自他の考えの共通点や相違点に気付くことができた。また、仲間の考えから自分の今後の行動に生かすことができることを見だし、新たに考えを表現することができた。



指導のポイント

- 具体的な場面での行動について判断を問うことは、既習事項を効果的に活用し、根拠を明確にししながら自分の考えを表現するという面で有効である。
- 自分の考えを共有できる場へ提出することで、自ら仲間の考えを確認することができ、自他の考えの共通点や相違点等に気付いたり、仲間の考えを基に学びを深めたりする力を高めることができる。